

アルミ板、ステンレス冷延薄板、表面処理鋼板などの意匠性金属板にとって、運搬時や加工時に表面を守る表面保護フィルムは欠かせない存在だ。意匠性金属板用の表面保護フィルムを扱う専門流通はどのような役割を担い、また将来に向けた課題認識を持っているのか。名古屋を本拠に全国的に営業展開する城山（本社・名古屋市中東区）の加藤隆介社長に話を聞いた。（谷山 恵三）

「城山は意匠性金属板用の表面保護フィルムの独立系専門流通であり、幅広いメーカーのフィルムを扱っている。種類はどの程度の数になるのか。」

「フィルムの種類、厚み、色と粘着剤の4要素の組み合わせで品番が決まり、その品番はほぼ100種類ある。フィルムは重量管理ではなく長さ管理がベースで、メーカー標準は品番にもよるが100巻巻き、200巻巻き、500巻巻き、1千巻巻き、3千巻巻きと

# 意匠性金属板と表面保護フィルム



端処理後の大型切断品

あり、品番と長さの掛け合わせは数百種類になる」

「メーカーはステンレス用、アルミ用、カラー鋼板用、あるいはレーザー加工用、精密板金加工用など製品・加工別に製品をそろえる。さらにステンレスだけでも表面対して、相対評価によるデ

仕様や使用環境は多岐にわたる。流す通にはどのような専門性が求められるのか。「当社は、お客様が適合品を選定するための相対評価サポート体制を構築して粗度や用途により、フィルムと粘着剤の組み合わせが変わって、専門知識を習得するた

「お客様が適合品を選定する際の相対評価サポート体制を構築して粗度や用途により、フィルムと粘着剤の組み合わせが変わって、専門知識を習得するた



城山 加藤隆介社長

	導入時期	主な加工
小型切断1号機	2013年6月	スコアカッター切断
小型切断2号機	2019年1月	同上(2軸ターレット式)
大型切断1号機	2010年7月	チップソー切断
大型切断2号機	2014年8月	チップソー切断
リワインド機	2016年2月	巻替え加工
加温庫	2019年6月	加温(カゴ台車8台収納)

# 加工機能高め、小口短納期対応を強化



適切なフィルムの硬さに保つ加温庫

「納期対応やサイズ対応はメーカーにより差があり、当社としてお客様に対する小口短納期対応を強化したいと考え、徐々に設備を増強してきた。先代(加藤充会長)は1983年の創業当時から『いずれは』と考えていたことで、2010年に現在とは違う場所で大規模な設備増強を開始した。切断加工を開始した。巻替え加工は1千巻巻きなどの原反フィルムを100巻巻きなどに巻き替えるものだ。当社の巻替え機は最大分速200巻の能力を有し、クラス8を目標としたクリーンルームで巻替え加工を行っている。全ての品番を加工している訳ではないが、自社加工の出荷比率は4割に高まっている。ここ数年は物流コストが増大しており、当社が設備を生かして小口短納期対応を強化することで、メーカーの負担軽減に貢献することもできる」と考える。

# この人にこのテーマ

# 最適なフィルムと粘着剤選定サポート

「新たな取り組みでは、愛知県の手コイルセンターで加工している一部の品種に関して、2年ほど前からコイルの長さに合わせたフィルムを納めている。汎用的なフィルムなら残材の使い道はいろいろあるが、特殊なフィルムでは残材の有効活用が難しい。当社の巻替え加工を活用すれば、コイルの中にフィルムが残るが、またフィルム残が発生せず、さらにジョイント作業が無くなることで作業者の危険負担を軽減できる。そのようなフィルムをお届けすることができる。今後お客様が困りごとの解決につながる加工サービスを図っていく」

「残材の使い道という話が出たが、余ったフィルムは最終的には産廃処理される。」「使用されるプロセスにおいて疵防止や歩留まり向上などで省エネ・環境改善に貢献していることも知って頂きたいが、扱っている企業の責任として、地球環境への配慮は大変重要だ。メーカーの広域再生の取り組みに参画するなど、流通の立場でできることを実行していきたい」

「鋼材・非鉄金属流通にとってフィルムは副資材の一つであり、必要不可欠だが日の当たりにくい商品でもある。」「フィルムは主役である意匠性金属板に付随する商

# 地球環境保全の取り組みも実行



専門知識ハンドブック⑤、フィルムや被着材が並ぶサンプル室



品に位置づけられており、また、それで良いのだと思う。ただし、それゆえに見逃されてきた課題があり、それら課題については正確な情報発信に努めたい。例えば、フィルムの種類が多様化した結果、鉄鋼・アルミのcoilセンター・研磨・流通の皆さんの管理コス

「話を変わるが、ここ数年、ロシアのシラカバKD材(強制乾燥材)を活用し、梱包用スキッド材「Sdウッド」の販売を手掛けている。」「フィルムのお客様から複数の現地の製材工場にソースを広げつつある」と

「なった」とお聞きしたのが契機だった。当初は国内の広葉樹に着目し、これは不首尾に終わったが、ロシアのシラカバKD材に行き着いた。シラカバは北欧家具などに使われるが、色などの外観上の課題から用途が限定されていた部分があり、これを活用している。100%合法材であり、高強度かつ低含水率でスキッド材に適しており、安定供給も確保できる。お客様の困りごとの解決に役立つことができ、地球規模の環境課題である森林減少に対処して具体的に寄与することもできる。品質基準も定め、複数の現地の製材工場にソースを広げつつある」と